

モーセのような預言者

ジェイコブ・プラッシュ

モーセのような預言者

申命記 18 章 18 節はメシアについてであるとタルムードは言っています。

『わたしは彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのようなひとりの預言者を起こそう。わたしは彼の口にわたしのことばを授けよう。彼は、わたしが命じることをみな、彼らに告げる。』

私たちはこの箇所がイエスに関してであると知っています。彼がモーセのような預言者なのです。

外国の圧政の下で生まれる

『さて、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こった。彼は民に言った。「見よ。イスラエルの民は、われわれよりも多く、また強い。さあ、彼らを賢く取り扱おう。彼らが多くなり、いざ戦いというときに、敵側についてわれわれと戦い、この地から出て行くといけないから。」そこで、彼らを苦役で苦しめるために、彼らの上に労務の係長を置き、パロのために倉庫の町ピトムとラメセスを建てた。』
(出エジプト 1 章 8 節－11 節)

モーセは外国の圧政の下で生まれました。

『そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録であった。』(ルカ 2 章 1 節－2 節)

イエスは外国の圧政の下で生まれました。

邪悪な王によって脅される

『また、エジプトの王は、ヘブル人の助産婦たちに言った。そのひとりの名はシフラ、もうひとりの名はプアであった。彼は言った。「ヘブル人の女に分娩させるとき、産み台の上を見て、もしも男の子なら、それを殺さなければならない。女の子なら、生かしておくのだ。』』（出エジプト 1 章 15 節－16 節）

邪悪な王はモーセとヘブル人の男の子が殺されるように命令しました。

『その後、ヘロデは、博士たちにだまされたことがわかると、非常におこって、人をやって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺させた。その年齢は博士たちから突き止めておいた時間から割り出したのである。』（マタイ 2 章 16 節）

邪悪な王はイエスとユダヤ人の男の子が殺されるように命令しました。

両親の信仰

『女はみごもって、男の子を産んだが、そのかわいいのを見て、三か月の間その子を隠しておいた。』（出エジプト 2 章 2 節）

『信仰によって、モーセは生まれてから、両親によって三か月の間隠されていました。彼らはその子の美しいのを見たからです。彼らは王の命令をも恐れませんでした。』（ヘブル 11 章 23 節）

モーセの命は彼の両親の信仰によって救われ、保たれました。

『彼らが帰って行ったとき、見よ、主の使いが夢でヨセフに現われて言った。「立って、幼子とその母を連れ、エジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしています。」そこで、ヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに立ちのき、』（マタイ 2 章 13 節－14 節）

イエスの命は彼の両親の信仰によって救われ、保たれました。

エジプトで守られる

『その子が大きくなったとき、女はその子をパロの娘のもとに連れて行った。その

子は王女の息子になった。彼女はその子をモーセと名づけた。彼女は、「水の中から、私がこの子を引き出したのです。」と言ったからである。』(出エジプト 2 章 10 節)

モーセはエジプトでひと時の間、保護を受けました。

『そこで、ヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに立ちのき、ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、「わたしはエジプトから、わたしの子を呼び出した」と言われた事が成就するためであった。』(マタイ 2 章 14 節-15 節)

イエスはエジプトでひと時の間、保護を受けました。

彼の知恵を上回る者はいない

『そのとき、ミリヤムはアロンといっしょに、モーセがめとっていたクシュ人の女のことで彼を非難した。モーセがクシュ人の女をめとっていたからである。彼らは言った。「主はただモーセとだけ話されたのでしょうか。私たちとも話されたのではないのでしょうか。」主はこれを聞かれた。さて、モーセという人は、地上のだれにもまさって非常に謙遜であった。』(民数記 12 章 1 節-3 節)

モーセの持っていた知恵のために争おうとした者たちがいました。

『そしてようやく三日の後に、イエスが宮で教師たちの真ん中にすわって、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。聞いていた人々はみな、イエスの知恵と答えに驚いていた。』(ルカ 2 章 46 節-47 節)

その幼少時代から、イエスはその素晴らしい知恵と理解を示し、他の者たちは彼と競おうとしましたが、出来ませんでした。

ユダヤ人によって拒絶される

『民はモーセが山から降りて来るのに手間取っているのを見て、アロンのもとに集まり、彼に言った。「さあ、私たちに先立って行く神を、造ってください。私たちがエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにはわからないから。』(出エジプト 32 章 1 節)

モーセはイスラエルの民によって、ひと時の間退けられました。

『しかし、総督は彼らに答えて言った。「あなたがたは、ふたりのうちどちらを釈放してほしいのか。」彼らは言った。「バラバだ。」ピラトは彼らに言った。「では、キリストと言われているイエスを私はどのようにしようか。」彼らはいっせいに言った。「十字架につけろ。』』（マタイ 27 章 21 節－22 節）

彼の地上での生涯が終わりに近づくとつれて、イエスはユダヤ人に、『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。』（マタイ 23 章 39 節）と言いました。

『兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、』（ローマ 11 章 25 節）

イエスはイスラエルの民によって、ひと時の間退けられました。

異邦人に受け入れられる

『次の日、また外に出てみると、なんと、ふたりのヘブル人が争っているではないか。そこで彼は悪いほうに「なぜ自分の仲間を打つのか。」と言った。するとその男は、「だれがあなたを私たちのつかさやさばきつかさにしたのか。あなたはエジプト人を殺したように、私も殺そうと言うのか。」と言った。そこでモーセは恐れて、きっとあのことが知れたのだと思った。パロはこのことを聞いて、モーセを殺そうと捜し求めた。しかし、モーセはパロのところからのがれ、ミデヤンの地に住んだ。...モーセは、思い切ってこの人といっしょに住むようにした。そこでその人は娘のチッボラをモーセに与えた。』（出エジプト 2 章 13 節－15 節・21 節）

モーセはユダヤ人に退けられましたが、異邦人に受け入れられました。

『そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立ちます。高ぶらないで、かえって恐れなさい。』（ローマ 11 章 20 節）

『わたしに問わなかった者たちに、わたしは尋ねられ、わたしを捜さなかった者た

ちに、見つけられた。...それゆえ、神である主はこう仰せられる。「見よ。わたしのしもべたちは食べる。しかし、あなたがたは飢える。見よ。わたしのしもべたちは飲む。しかし、あなたがたは渇く。見よ。わたしのしもべたちは喜ぶ。しかし、あなたがたは恥を見る。見よ。わたしのしもべたちは心の楽しみによって喜び歌う。しかし、あなたがたは心の痛みによって叫び、たましいの傷によって泣きわめく。あなたがたは自分の名を、わたしの選んだ者たちののろいとして残す。それで神である主は、あなたがたを殺される。ご自分のしもべたちを、ほかの名で呼ばれるようにされる。』（イザヤ 65 章 1 節・13 節－15 節）

イエスはユダヤ人に退けられましたが、異邦人に受け入れられました。

家族から非難を受ける

『そのとき、ミリヤムはアロンといっしょに、モーセがめとっていたクシュ人の女のことによって彼を非難した。モーセがクシュ人の女をめとっていたからである。』（民数記 12 章 1 節）

モーセは黒人のアフリカ人の女をめとっていました。

『イエスが家に戻られると、また大ぜいの人が集まって来たので、みなは食事する暇もなかった。イエスの身内の者たちが聞いて、イエスを連れ戻しに出て来た。「気が狂ったのだ」と言う人たちがいたからである。』（マルコ 3 章 20 節－21 節）

モーセは異邦人の妻をめとったために、自分の家族から非難されました。イエスはその予型や象徴において、主に異邦人である教会をめとったので、ユダヤ人たちは彼を非難します。ルツ記はペンテコステの日にシナゴグで朗読されています。ユダヤ人が異邦人の妻をめとり、その子どもはベツレヘムで生まれ“買戻す者（贖い主）”と呼ばれたという話です。

罪を負うことを受け入れる

『そこでモーセは主のところに戻って、申し上げた。「ああ、この民は大きな罪を犯してしまいました。自分たちのために金の神を造ったのです。今、もし、彼らの罪をお赦しくだされるものなら——。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。』（出エジプト 32 章 31 節－32 節）

モーセは民の罪が赦されるよう神に祈り、その罪の結果と咎とを彼自身が負うことを受け入れました。

『あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。』（1ペテロ 2章 21節 - 24節）

イエスは民の罪が赦されるよう神に祈り、その罪の結果と咎とを彼自身が負うことを受け入れました。

四十日四十夜断食をする

『モーセはそこに、四十日四十夜、主とともにいた。彼はパンも食わず、水も飲まなかった。そして、彼は石の板に契約のことば、十のことばを書きしるした。』（出エジプト 34章 28節）

モーセは神の民に契約をもたらすために、四十日四十夜断食しました。

『そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。』（マタイ 4章 2節）

イエスは神の民に契約をもたらすために、四十日四十夜断食しました。

神と顔と顔を合わせる

『モーセのような預言者は、もう再びイスラエルには起こらなかった。彼を主は、顔と顔を合わせて選び出された。』（申命記 34章 10節）

モーセは神と顔と顔を合わせるような関係にありました。

『いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神

を説き明かされたのである。』（ヨハネ 1 章 18 節）

イエスは神と顔と顔を合わせるような関係にありました。

顔が輝いた

『モーセが主の前には行って行って主と話すときには、いつも、外に出るときまで、おおいをはずしていた。そして出て来ると、命じられたことをイスラエル人に告げた。イスラエル人はモーセの顔を見た。まことに、モーセの顔のはだは光を放った。モーセは、主と話すためには行って行くまで、自分の顔におおいを掛けていた。』（出エジプト 34 章 34 節－35 節）

モーセが神と顔と顔を合わせて会った時、彼は超自然的に光を放ちました。

『そして彼らの目の前で、御姿が変わり、御顔は太陽のように輝き、御衣は光のように白くなった。』（マタイ 17 章 2 節）

イエスはモーセのように超自然的に光を放ちました。

声が聞こえる

出エジプト記で神は天から直接モーセに話しかけられ、声が聞えたとあります。

『すると、イエスは彼らに答えて言われた。「人の子が栄光を受けるその時が来ました。父よ。御名の栄光を現わしてください。」そのとき、天から声が聞こえた。「わたしは栄光をすでに現わしたし、またもう一度栄光を現わそう。』（ヨハネ 12 章 23 節－28 節）

神は天から直接イエスに語りかけられました。

墓が御使いによって守られる

ユダの手紙の 9 節の中で、御使いがモーセの墓を守っていたとあります。

『すると、大きな地震が起こった。それは、主の使いが天から降りて来て、石をわきへころがして、その上にすわったからである。その顔は、いなずまのように輝き、

その衣は雪のように白かった。番兵たちは、御使いを見て恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。すると、御使いは女たちに言った。「恐れてはいけません。あなたがたが十字架につけられたイエスを捜しているのを、私は知っています。ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらんください。』（マタイ 28 章 2 節－6 節）

イエスの墓をひとりの御使いが守っていました。

神の御名を明らかにする

『モーセは神に申し上げた。「今、私はイスラエル人のところに行きます。私が彼らに『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされました。』と言えば、彼らは、『その名は何ですか。』と私に聞くでしょう。私は、何と答えたらよいのでしょうか。」神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある。』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエル人にこう告げなければならぬ。『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところへ遣わされた。』と。』（出エジプト 3 章 13 節－14 節）

モーセは神の御名を神の民に明らかにしました。

『わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました。...わたしはもう世にいません。彼らは世にいますが、わたしはあなたのみもとにまいます。聖なる父。あなたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それはわたしたちと同様に、彼ら一つとなるためです。わたしは彼らといっしょにいたとき、あなたがわたしに下さっている御名の中に彼らを保ち、また守りました。』（ヨハネ 17 章 6 節・11 節－12 節）

イエスは神の御名を神の民に明らかにしました。

民を養う

『その一面の露が上がると、見よ、荒野の面には、地に降りた白い霜のような細かいもの、うるこのような細かいものがあつた。イスラエル人はこれを見て、「これは何だろう。」と互いに言った。彼らはそれが何か知らなかったからである。モーセは彼らに言った。「これは主があなたがたに食物として与えてくださったパンで

す。』(出エジプト 16 章 14 節-15 節)

モーセは超自然的に、多くの神の民を養いました。

『そしてイエスは、群衆に命じて草の上にすわらせ、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて、それらを祝福し、パンを裂いてそれを弟子たちに与えられたので、弟子たちは群衆に配った。人々はみな、食べて満腹した。そして、パン切れの余りを取り集めると、十二のかごにいっぱいあった。』(マタイ 14 章 19 節-20 節)

イエスは超自然的に、多くの神の民を養いました。

しるしと不思議を行う

『モーセのような預言者は、もう再びイスラエルには起こらなかった。彼を主は、顔と顔とを合わせて選び出された。それは主が彼をエジプトの地に遣わし、パロとそのすべての家臣たち、およびその全土に対して、あらゆるしるしと不思議を行なわせるためであり、また、モーセが、イスラエルのすべての人々の目の前で、力強い権威と、恐るべき威力とをことごとくふるうためであった。』(申命記 34 章 10 節-12 節)

モーセは彼以前の誰もしたことのないような、奇跡やしるし、不思議を行いました。

『しかし、わたしにはヨハネの証言よりもすぐれた証言があります。父がわたしに成し遂げさせようとしてお与えになったわざ、すなわちわたしが行なっているわざそのものが、わたしについて、父がわたしを遣わしたことを証言しているのです。』(ヨハネ 5 章 36 節)

主イエスは誰もしたことのないようなわざやしるし、不思議、奇跡を行いました。

血で契約を結ぶ

『そして、契約の書を取り、民に読んで聞かせた。すると、彼らは言った。「主の仰せられたことはみな行ない、聞き従います。」そこで、モーセはその血を取って、民に注ぎかけ、そして言った。「見よ。これは、これらすべてのことばに関して、主があなたがたと結ばれる契約の血である。』(出エジプト 24 章 7 節-8 節)

モーセは山へ上り、血で契約を結び、神の民を血で覆いました。

『また、彼らが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福した後、これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」また杯を取り、感謝をささげて後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。』(マタイ 26 章 26 節-28 節)

『しかしキリストは、すでに成就したすばらしい事がらの大祭司として来られ、手で造った物でない、言い替えば、この造られた物とは違った、さらに偉大な、さらに完全な幕屋を通り、また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられたのです。』(ヘブル 9 章 11 節-12 節)

主イエスは山へ上り、血で契約を結び、神の民を血で覆いました。

旧約聖書には、エリヤやイザヤ、エレミヤ、サムエル、ダビデのような偉大な者が数多くいました。

しかし、モーセのような預言者はひとり主イエス・キリストであり、イスラエルの真実のメシアです。